

令和元年度 金沢ベーシックカリキュラム実践推進事業 報告書

学校名	研究課題	研究手法
金沢市立富樫小学校	道徳	学習評価の充実

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 学習評価のための組織体制づくりと評価方法の工夫

- ・各学年1名の道徳担当者からなる道徳部会を設置
- ・昨年度の取組を基に、授業補助簿を改訂
- ・今年度の取組として、全学年で道徳カード・振り返りシートを採用
- ・年度始めに、通知表・要録に記載する評価の文言に関する留意事項を全教員で共通理解

(2) 重点2 道徳的価値への深い理解と教育課程への位置づけ

- ・児童の実態から本校の重点目標、各学年の重点内容項目を設定
- ・金沢工業大学白木みどり氏を講師として、道徳研修会を実施
- ・教育課程に、本校独自の取組を記載

(3) 重点3 家庭や地域社会との連携

- ・いしかわ教育ウィークあるいは授業参観で、全学年の道徳授業を公開
- ・地域の方がゲストティーチャーとして授業に参加
- ・学級通信で道徳科の授業内容を発信

2 取組の検証

(1) 重点1 学習評価のための組織体制づくりと評価方法の工夫

- ・各学年の教員アンケート（1月実施）によれば、6年と特別支援学級では、「評価の工夫・改善」の必要性を高く意識している

アンケート項目「次年度、学校全体で取り組む必要があることを2つ選んでください」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
ア 道徳教育推進教師を中心とした指導体制							
イ 道徳科の特質を生かした計画的・発展的な指導	○						
ウ 児童が主体的に道徳性を養うための指導	○						
エ 多様な考え方を生かすための言語活動		○	○				
オ 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導			○	○			
カ 情報モラルと現代的な課題に関する指導					○	○	○
キ 家庭や地域社会との連携による指導		○		○	○		
ク 評価の工夫・改善						○	○

(2) 重点2 道徳的価値への深い理解と教育課程への位置づけ

- ・道徳研修会（8月）では、道徳的価値と授業づくり、授業における評価等に関して、講師に質問したり教員同士で意見を交流したりした

質問や意見交流の様子（抜粋）

- ・課題を板書すべきか
 - －道徳的価値を課題にすると、児童生徒の発達段階によっては、教師が何を求めているか意識しすぎてしまうことがある
 - －課題を板書することにより思考が活性化するかどうか、また、教材にもよるのではないか
- ・道徳的価値は一定でも、価値観は人それぞれで、価値の多様性を出し合うようにするには
 - －多様性を出し合うときには、相互指名も有効で、友達に指名されると発言する子もいる
 - －一の子の意見も間違いではない、認めていくことが大切だ

- ・各学年の教員アンケート（1月実施）によれば、特に「資料提示の工夫」「話し合い活動の工夫」に意識して取り組んでいる

アンケート項目

「今年度、道徳の授業の指導について、意識して取り組んだことを3つ選んでください」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
ア 導入の工夫						○	○
イ 資料の提示の工夫	○	○		○	○	○	○
ウ 発問の工夫		○					○
エ 話し合い活動の工夫	○		○	○	○		
オ 書く活動の工夫	○		○			○	
カ 動作化、役割演技等の表現活動の工夫		○	○				○
キ 板書を生かす工夫					○		
ク 終末の工夫							

※ 特別支援学級は2学級別々に回答

(3) 重点3 家庭や地域社会との連携

- ・各学年の教員アンケート（1月実施）によれば、「保護者・地域の人々の協力を求めた」「学級通信等で取り上げた」等、積極的に家庭や地域社会と連携しようとしている

アンケート項目「学校の教育活動全体で取り組む道徳教育を進めるに当たり、保護者や地域の人々の理解や協力を得るために行った取組を選んでください（複数回答可）」

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
ア 道徳教育に保護者・地域の人々の協力を求めた		○	○	○	○	○	
イ 道徳教育について学級懇談会で取り上げた	○				○	○	
ウ 道徳教育について家庭訪問や保護者面談で取り上げた	○		○		○	○	
エ 学級通信等で道徳教育について取り上げた		○	○	○	○		

3 成果と課題

(1) 成果

- ・学習評価のための組織体制づくりについては、道徳部会で立案した事項を職員会議で検討したり学年会で学年の実態に合わせて共通理解したりすることができた
- ・評価方法の工夫については、同じ中学校区の伏見台小学校と共用する「補助簿」「道徳カード」「振り返りシート」を用いて、授業の様子を書き留めたり学期を通した児童の変容を見つめたりすることができた
- ・道徳的価値については、研修会や学年会で授業づくりを考える中で質問や意見交流をしながら理解を深めることができた
- ・家庭や地域社会との連携については、情報モラルの分野で、高学年では地域の教育機関等からゲストティーチャーを迎えて児童と保護者が参加し、中学年では児童が学習内容を家庭で保護者と話し合う授業を実施することができた

(2) 課題

- ・評価方法については、特別支援学級等で工夫・改善が必要とされており、児童のノート・振り返りシートの文章からだけでなく、表情カードや選択肢の選び方等様々な方法から児童の個人内評価を行うため、今後も学校全体で児童理解と研修を行いたい
- ・特別支援学級における道徳教育については研究途上であるため、評価方法だけでなく、家庭や地域社会との連携の方法等も含めて、今後も学校全体で研修や情報交流を進めたい
- ・情報化が進む現在、情報モラルの分野は家庭や地域社会との連携が特に必要であり、今後も積極的に協力を求めていきたい
- ・道徳的価値の理解は授業づくりにも関わっており、来年度は道徳的価値の理解を「発問の工夫」「板書を生かす工夫」にもつなげて指導と評価の一体化に努めたい